

## 資料センターの移設と基本構想委員会の状況について

### 事務局

自然学習資料センターの来年度の移設についての状況は、11月15日に県企画課とNPOの理事との打ち合わせの中で、県企画課の増田課長から説明がありました。それによれば、旧静岡南高校の校舎の改修についての設計はほぼ終了し、来年1月から6月ころまでに改修工事が行われ、7月ころに現在の清水区辻の資料センターから標本資料などの引越しを行い、その後それら資料などの整理収容を行う予定だそうです。

来年1月から6月の改修工事については、もともと学校の教室だったところを展示室や収蔵室にするための防火設備を設置する改装工事が中心で、収蔵室に設置する棚や備品については改修工事終了後に来年度予算で購入して設置する予定だそうです。

そして、新しい資料センターには、来年4月（平成26年度）から研究員（学芸員）と事務員を配置して業務を開始し、平成27年4月を目途に簡易的な収集資料活用の展示を一部公開して、新しい資料センターを開館することを計画しているそうです。また、本格的な展示については、平成26年度に設計を行い、27年度に展示工事を施工して、28年度にオープンすることを検討しているそうです。

これに対して、当NPOでは県企画課に対して、改修設計の詳細を知らせてもらいたい旨、申し出ました。また、「新しい博物館へのNPO静岡県自然史博物館ネットワークの関わり方」についてNPO側から積極的に提案していくことになりました。このことは早急に理事会で原案を作成したいと考えています。

「ふじのくに自然史系博物館基本構想委員会」については、第2回が9月4日に、第3回が10月16日に、第4回が11月26日に行われました。これらの検討委員会では、各委員からの提言とそれに対する討論が行われました。各委員の提言のテーマのタイトルを紹

介すると、第2回では、洪 恒夫委員から「学校校舎を活用したミュージアムの可能性『ミドルヤード』『スクール・モバイルミュージアム』」、高桑正敏委員から「静岡県にふさわしい自然史博物館のあり方」、小川義和委員から「社会に根ざした、社会のための、社会に働きかける博物館運営の在り方」、中山定雄委員から「若者が集う博物館～静岡文化芸術大学デザイン学部学生の提案から～」、第3回では、遠藤秀紀委員から「求め表現者：博物館が求める人材とは」、熊野善介委員から「米国、豪州における公立自然系博物館のソフト面の実態と県立博物館への提言」、下田路子委員から「静岡県の自然を誰にどのように伝えるのかー植物の研究者からの提言ー」、柴 正博委員から「目指すべき静岡県の自然史博物館」の提言があり、それぞれに質疑がありました。

また、第3回検討委員会では、特別講演として兵庫県立人と自然の博物館の高橋 晃次長が「兵庫県立人と自然の博物館の活動事例」というテーマで博物館の組織や基本機能、具体的な事業概要が紹介されました。

さらに、11月の第4回委員会では、天岸祥光副委員長から委員会でのこれまでの提言に対する感想とコメントが述べられ、安田喜憲委員長からは博物館の名称について「ふじのくに地球環境史ミュージアム」という提案があり、それらについて議論がされました。名称に「自然」や「博物館」が入っていないことなどについての意見がありました。

また、池谷県理事からは来年度に6人程度の博士号を有する研究職を公募することを検討していることが述べられました。

基本構想委員会では今後、これらの提言をもとに12月25日に第5回検討委員会を行い、基本構想案をまとめる作業を行っていくものと考えられます。